

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
希少がん診療・相談支援におけるネットワーク構築に資する研究
（分担研究報告書）

「希少がん中核拠点センターの整備（近畿地方）・全国ネットワーク構築のための研究」

研究分担者 松浦 成昭 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター 総長

研究要旨

近畿地方の希少がん中核拠点センターとして、大阪国際がんセンターの希少がんセンターは他地域および中央（国立がん研究センター）の中核拠点センターと希少がんホットライン会議、一般市民への広報活動である希少がんMeet the Expertを通じて、連携体制を構築することができた。

大阪府の希少がん診療体制については、大阪府がん診療連携協議会に設置した希少がん部会の活動により、連携体制の基礎が築かれた。近畿地方については、連携体制構築に向けて、各府県の都道府県がん診療連携拠点病院と協力体制を作ることができた。

A. 研究目的

本研究は、専門的な医療の提供可能な施設に限られる希少がんに関して、全国の希少がん患者が適切な医療へ繋がることができるよう、全国の7地区に整備される希少がん中核拠点センターの1つとして近畿地方の整備を行う。また、全国ネットワークを構築し、希少がん患者が住み慣れた地域で相談支援を受け、納得のゆく適正な希少がんの診療、さらに高度かつ専門的な医療に繋がることのできる体制を構築するための研究を行う。

B. 研究方法

1. 大阪国際がんセンター希少がんセンターと他の中核拠点センターとの希少がんホットライン共通手順の策定およびその他の連携事業

2. 大阪府内の希少がん診療施設との連携構築・情報共有

3. 近畿地方各府県の希少がんの実態・ニーズの調査および各がん診療連携拠点病院とのゆるやかな連携の開始

（倫理面への配慮）

患者・個人を用いた研究ではないので、倫理面への配慮事項は特になし

C. 研究結果

他の中核拠点センターといっしょに7/10（月）、10/16（月）、1/15（月）に全国希少がんホットライン会議を実施して、希少がんホットライン共通マニュアル、希少がんホットライン共通データベースについて策定に向けて意見交換を行った。また、国立がん研究センターが行っている一般市民への広報活動「希少がんMeet the Expert」の運営に協力し、第20回、31回、36回の肉腫（サルコーマ）の講演を当センターが担当した。

大阪府のがん診療拠点病院 67 病院から構成される大阪府がん診療連携協議会の下に希少がん部会を設置し、希少がんの連携体制構築を議論した。多彩な希少がんのがん種毎に専門家からなる検討委員会を作り、専門家の間で原案を作成してもらい、次年度から運用を開始する。

近畿地方の6府県（大阪府、京都府、兵庫県、和

歌山県、奈良県、滋賀県）の都道府県がん診療連携拠点病院と希少がん連携体制の構築に関して意見交換を行い、がん登録データを元に希少がんの実態を共有した。次年度から詳細な調査を実施して、近畿地方全体での現状を把握していく予定である。

D. 考察

他の中核拠点センターとともに全国希少がんホットライン会議は今後の連携に向けてのベースになり大変有用であった。また、希少がんMeet the Expertの企画を通して、希少がん分野の専門家とのつながりができて、今後の連携体制構築に有用であった。大阪府内の希少がん連携体制は大阪府がん診療連携協議会希少がん部会で基礎が構築できた。また、近畿地方の連携に向けて、協力体制が作られた。

E. 結論

他の中核拠点センターと行った全国希少がんホットライン会議、国立がん研究センターの希少がんMeet the Expertの企画は今後の連携に大変有用であった。また、大阪府がん診療連携協議会希少がん部会を通じて、今後の大阪府の希少がんの連携体制構築の礎ができた。近畿地方の都道府県がん診療連携拠点病院との交流を通じて、近畿の連携体制の推進が期待された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

松浦成昭。高橋雅信：シンポジウム 希少がんの視点から肉腫を考える 第7回日本サルコーマ治療研究学会、2024年2月、名古屋

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他
特記事項なし